

令和6年6月17日

西部農林水産振興センター 農業振興部

標 題	有志メンバーによるビジョン「農業の道しるべ」が地区全体の取組へ！ ～浜田市 A 地区での地域農業を維持・発展させる仕組みづくりパート2～
-----	---

(ダイジェスト)

高齢化が進む中山間地域の A 地区の有志メンバー12 名に対して、農業振興部で1 年間、重点的に話し合いの支援をした結果、将来に向けたビジョン案ができ、その取り組みが地区住民全体の活動に進展しました。地域をまとめるビジョンづくりとそれを実行するための主体づくりが着実に進みつつあります。

当部では、浜田市内の中山間地域の中でも人口減少率が高い A 地区（5 集落、88 世帯、高齢化率 64%）を県の「地域農業の維持・発展の仕組みづくり」を進める重点地区として位置づけ、昨年度から継続して支援をしてきました。

昨年度は、話し合いを効果的に進めるために A 地区の農業を考える会（A 地区内の担い手、若手、女性等有志 12 名）に参加し、意見交換や先進地視察を行いました。話し合いの中では様々な課題がありましたが、最終的には「個人で守れなくなる農地を誰が担うか今から考えること」、「担い手を確保していくこと」という2つを取り組むべき課題として整理しました。そして、その課題解決につながる具体的プランとして、守る農地の有効活用方法、草刈隊の結成、A 地区ファンづくり、後継世代への意向調査、圃場整備の検討など 15 項目を「A 地区農業の道しるべ」として整理しました。

今年度、4月4日に開催した A 地区の農業を考える会では、「この道しるべ（ビジョン）を地区全体に納得してもらおうことが大事」「ビジョンの実効性を高めるには今の会だけでは不十分」との意見がありました。そこで、A 地区の全戸が参加するまちづくり委員会の総会で、このビジョンを案として報告し、まちづくり委員会の中に農業・農地保全部会を設ける提案をすることになりました。

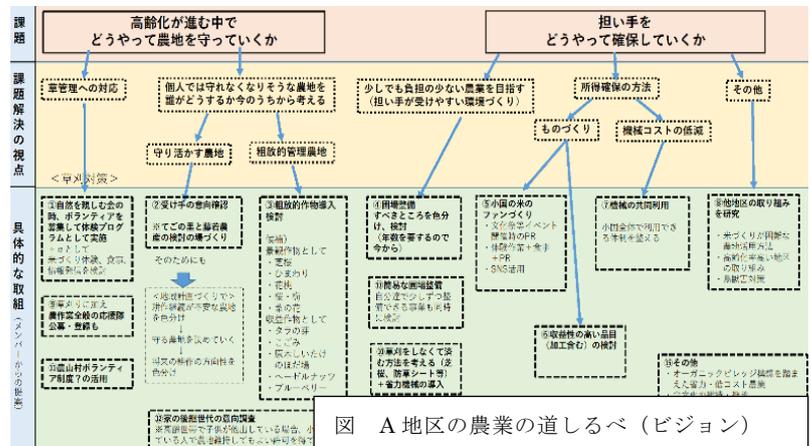


図 A 地区の農業の道しるべ（ビジョン）

4月21日のまちづくり委員会定期総会では、A 地区の農業を考える会の代表が「高齢化するこの地域の農地をどうやって守り、担い手を確保していくかを検討してビジョンを策定した。このビジョンは、あくまで案。皆さんの意見を取り入れながら地域全体で考え、できることから実行していきたい。」と力強く説明されました。その結果、まちづくり委員会に、「農業・農地保全部」を設立することが正式に承認され、ビジョン実践のための主体づくりを行うことができました。

今後も当部では、ビジョンの実現に向けた支援を行っていきます。



写真 まちづくり委員会定期総会の様子